

# WITH

ARISAWA COMMUNICATION MAGAZINE

VOL.15

## NEXT 100 新たなる挑戦、有澤建設 ARISAWA

2017 JUNE

人と人との想いを次の100年へ  
ARISAWA 100th ANNIVERSARY



WITH ARISAWA COMMUNICATION MAGAZINE VOL.15 2017 JUNE

## CREATORS

博多人形をはじめ、伝統や枠に囚われない様々なアートワークを手がけ、世界的な活躍を見せる「中村人形」人形師のお二人。建築、人形づくりと畠は違えど「モノづくりの扱い手」という共通の立場であるARISAWAが、そのこだわりに迫ります。4代に渡り伝統工芸を守り、かつ進化させ続けているお二人に、「モノづくりの真髄」を伺いました。

会長・有澤廣己と信喬氏はさかのぼることは高校時代からの長い付き合い。長年の間友として親交を深めてきた二人ですが、新社屋建設記念をきっかけに、初めての人形作りを依頼しました。

**日本の人形の役目とは**  
信喬氏 人形には觀賞用・玩具用のものなど様々ありますが、伝統的な日本の文化を継ぐ人形は、少々役目が異なります。日本の人形は、例えばお雛様や五月人形のような子供の成長を願うものであったり、恵比寿様を飾り商売繁盛を願つたりなど良いことが訪れるように、「人が願いをかける」役目があります。

**表現したいのは人形の「中身」**  
信喬氏 作る側の精神性が非常に重要です。感性を押し付けるようなことでなく、自我を無にして人々が一人でも幸せになるよう思いを込めます。表現したいのは形でなく中身。人形は思いで対して形を与えているのです。だから私達人形師は人形の中身に、「見る」と「幸せになれるような思い」を詰めていくことが大切なことだと思っています。例えばその土地の意味に必要なもの、人のための人形であれば、そのことを考えつくした人形を作るようにする、ということです。



## FUKUOKA



人形師 中村 信喬(左) / 中村 弘峰(右)

「中村人形」の人形師、3代目・中村信喬さんと、4代目の弘峰さん。信喬さんは日本工芸会理事を務めるほか、弘峰さん共々作品は数々の賞を受賞。その視野は世界をとらえている。



100周年記念「福之神 百壽の舞」  
有澤建設100周年、場所・職業の意味を考えつくされた、「福の神の木彫彩色人形」。人形の着物の柄には100個の「寿」の文字が施されており、有澤建設の明るい未来を願い制作された。

山笠の人形を通して伝えたいこと

信喬氏 歴史を次世代の人々に伝え、知るきっかけとなるものを主題として手がけるようにしています。必ず親しい存在があつて生まれ歴史や意味があつて福岡に生まれている。縁があつて、出会って、ともに時代に生きているという繋がりを作品を通して感じてもらえたと想っています。私自身も人形師として代々続く家系に生まれたのですが、それは人形を作るために、自分の魂がそれを選んで生まれてきたのだと思っています。

移りゆく時代の中変化する「舞台」

弘峰氏 世界はどんどん広がっていきました。そのことで、自分の立ち位置や、やるべきことが明確になりました。父は日本の美術の方々と戦う時代でしたが、僕は世界で戦う時代でした。戦っていないければ埋没してしまう時代になつたと思います。伝統と時代をいかにバランス良く表現していくか、試行錯誤の日々です。



次世代に受け継ぐべき精神とは  
信喬氏 人形に限らず、「何か作つてほしい」というご要望を頂くと何でも作ります。人形の種類や技術にも拘るような専門はありません。素材もどんな材料を使っても構わない。大切なのはいつも、「その時代の最高のものを常に作り続けること」。その精神だけは、次世代へ必ず引き継いでゆくものです。

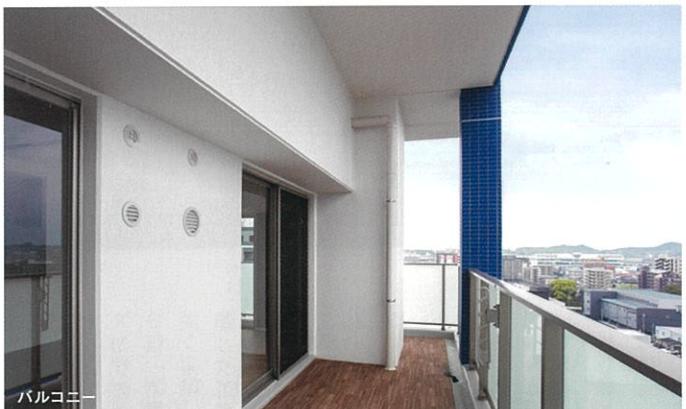
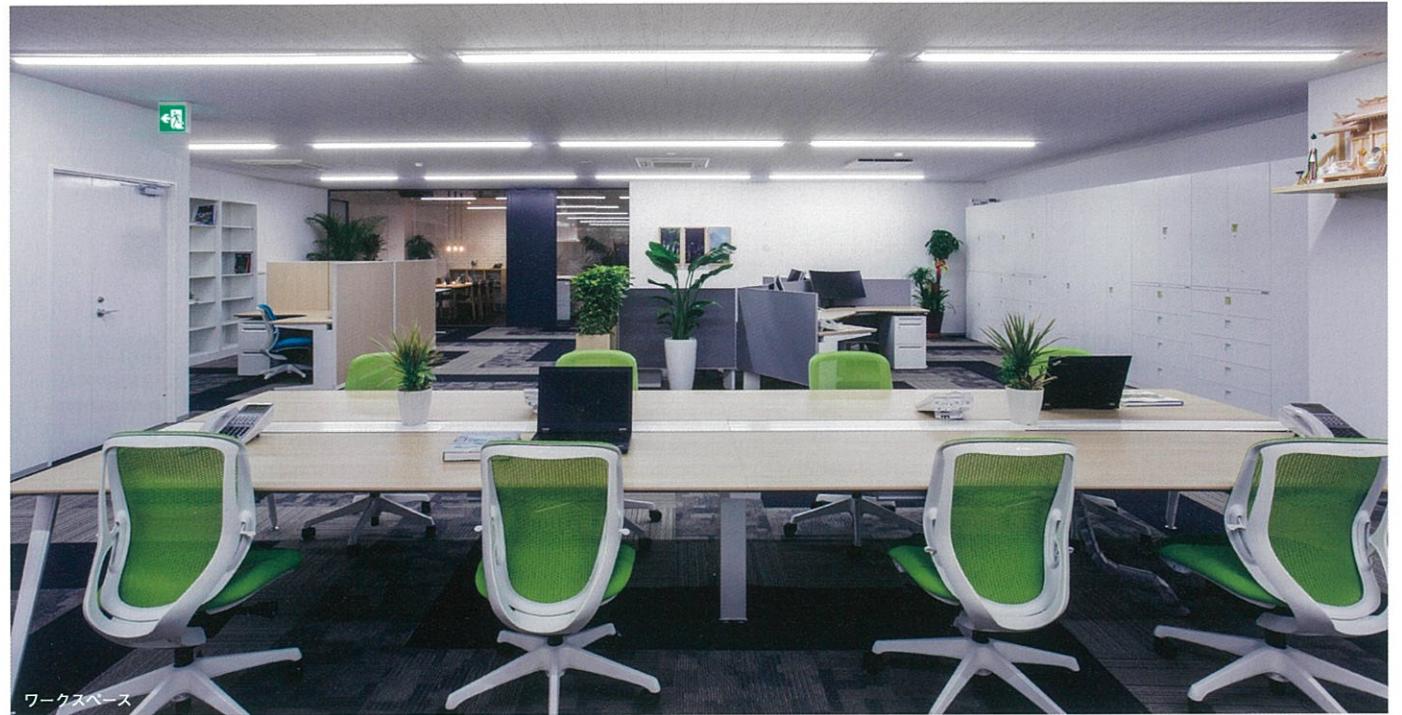


桃太郎 壱童子 The Otogi League Allstars Momotaro 巴里の王様  
桃太郎はロングセラーのモチーフ。(作:中村信喬) 壱童子はめでたさに形を与えたといふ作品。(作:中村弘峰) 五月人形の再解釈を試みた作品。(作:中村弘峰) 伝統的なイメージから逸れる、エルメスのスカーフを纏う。(作:中村弘峰)

中村人形を支え続ける初代の言葉

信喬氏 「おかゆ食つてもいいもの作れ」という初代の家訓が、今の中村人形の土台となっています。苦しいとき迷っている。それはいいものを作つてもらいたいのです。それが本質など。自分の作品を通して、本質に触れ、言葉に乗せずとも表現できるような制作をしていきたいと思っています。

僕らは普段の生活には、要らないものを作っていますが、103年もの間続いている。それはいいものを作つてもらいたいのです。人生には様々なときがあり、人が求めてくれた結果なのだと思います。人のためにやることには必ず不思議とプラスされて戻り、これからも重なっていくことを信じています。



### POINT 山王2丁目交差点にそびえる白い巨塔は…

外装材で使用している大判タイルはなんとイタリアから空輸で手配しました。アクセントカラーの青いタイルはARISAWAのコーポレートカラーと同色で製作しています。黒のルーバーを使うことで事務所部分と住戸部分のイメージを分けています。

**贅沢な共用空間**  
2階、3階は駐車場です。その大半は屋根付きで入り口にはグリルシャッターがついているので防犯面も安心です。4階から13階までが賃貸住戸となっています。全戸60戸すべて2LDKとなっており、全戸リビングは南向きで日当りは良好です。各タイプ設計者と施工者によるこだわりが詰め込まれた間取りで、中でもわたしのお気に入りは広い共用廊下とバルコニーです。エレベーターから出ると一直線に伸びる幅2m以上の共用廊下は解放的で、ベビーカーや荷物を持っての移動もスムーズです。さらに上階からは福岡タワーや福岡空港に離着陸する飛行機を眺めることができます。おかげさまで現時点では満室御礼となっております。

**この建物に対する思い**  
入社当時から私の目標は変わりません。より良いモノをつくること。終着点のない目標だから達成することはないのでお客様や人々に笑顔が溢れるたびに、この仕事を選んで本当によかったです。決してラクな職種ではありませんが、同じ目標をもった同年代の仲間と切磋琢磨できるアットホームな環境がここにあります。今の自分を支えているのです。我々は建物を造ることで人々の暮らしを豊かにし、建築物が関係性を持つことで都市が生まれ、都市が私たちを育む場所となると考えています。この建物がそんな循環型社会の原点となり、ここから次の100年へ発信できればと願います。常に無限の可能性を信じ追求することで私たち建築のプロは次世代へのコミュニティーを築いていきます。

## LOOK BACK

# いま、新社屋建設を振り返る 有澤建設本社屋の こだわりに迫る



工務部主任  
山崎 健太

数年まえから友人に誘われているボディーボードを今年こそはと計画中!夏にむけて肉体改造シナケレバ…。と思いつつ、今日もビールを飲むのである。



## 新社屋建設にあたって

竣工間際の繁忙期には1日約100人以上の職人さんを管理・指示していく中で無事故・無災害で無事に竣工を迎えることができ、まずは安心しています。本社屋は敷地に対して、建物の面積が大半を占めており土地を余すところなく利用しているため、資材の搬入や搬出、コンクリートの打設や足場の設置計画等にはとくに慎重に計画をしました。本建物は鉄筋コンクリート造なのですが、駐車場のスロープ部分の一部が鉄骨造となっていました。鉄骨の建て方に際しての安全管理や全体的な工程の管理にも苦労しました。さらに追いで打ちをかけるように現在の建築業界では職人不足が深刻な問題となっていました。その影響も少なからず受けているように感じました。

私はこの本社建て替え工事を担当する以前も、近くでマンションの建築を担当していたので、2年以上も近所の定食屋さんに通い詰めたこともあり、非常に思い入れ深い現場です。



## いざ社屋へ

1階には弊社の事務所を構えており、風除室より壁面に板張りを施したロビーを通して執務室へとつなぎます。メインのデスクはフリーアドレス制度を取り入れており、個人の席が固定されてないのと他部署間でのコミュニケーションが取りやすくなっています。真ん中にある木製の小屋組みのような場所は作業スペースです。社長室は背面をボーダータイルで仕上げてシックな感じにまとめていました。奥へと進むとまたイメージの異なるキッチンを備えた部屋が打合せスペースです。ここで打ち合わせはつい時間を忘れてしまうこともあります。奥に見えるのが会長室のですが、じつはこの2つの部屋には天井がありません。忘れたわけではありません(笑)。解放感を得る目的で、実は天井を造るよりも時間とコストがかかります。そしてさらに奥へと進んでいくと、地下へと続く階段の先には会議室があります。月に一度、全社員が集まり全体会議を行なっています。



ロビー

作業スペース



会長室



キッチン



約することが、少し苦労したところです。  
日野 皆が皆プロですから、意見をまとめることが大変だったでしょう。

中小川 ですので私は設計担当として、0からのスタートの中でも誰もが目に見える形でイメージしやすいように、サンプルやパースなどの現物や模型をひとつひとつ準備して、意見をまとめていくことを心がけていました。何度も何度も練り直し、限られた時間ギリギリまで試行錯誤。そのため日野さん、山崎さんにも、ものすごい量のサンプルを作っていましたね。完成した社屋を眺めたたびに「ここまでこだわってよかった」と心の底から感じられます。

山崎 2階のグルーバー（外壁の格子）を実寸で作ってもらつたこともあります。実際外に出して、色味や見え方などをひとつひとつ決めること、大変でしたよね。形や色も含め10種類くらいは検討したんじゃないかなと。中小川 その他もタイルや天井、床などの大きさ、色味など、考えるべきところは気が遠くなるほどでしたよな。しかし誰一人として妥協したりせず、皆が納得のいく形にたり着けましたね。完成した社屋を眺めたたびに「ここまでこだわってよかった」と心の底から感じられます。

日野 また大掛かりな工事のうえ、道路使用では夜間しか借りれない制約がある中、道路が使えるようになって、ぐっと効率的に、計画通りの作業ができるようになりました。課題としていた作業も、お陰で問題なく執り行うことができました。

山崎 それはよかったです。安全面にも配慮した工事も可能になりましたよな。

日野 部署同士のやり取りは非常にスムーズにできたことも、ポイントなのではないかと思っています。都度しっかりと相談・報告を密に行うことができ、強い連携という心強さが、プロジェクト遂行にあたり大きな




**POINT**

**有澤建設新社屋**

オフィス、住居階、駐車場を複合的に備えた、有澤のこだわりが詰まった新社屋。盤石な基礎へのこだわりはもちろん、福岡の伝統の技を大切に守りながら新しい技術も融合させた新社屋は、先進的な印象の中にも温かみを感じられる、有澤らしい空間づくりを実現している。

支えになりました。  
中小川 私は住宅デザインを担当していたので、実のところは今までゼネコンの現場監督と接する経験は少なくて。更に社内のメンバーと一緒に、しっかりと仕事をできる経験は初めてでした。社内一つの大きなプロジェクトに向けて、一つになつて取り組んでいくということができた経験は、強いつい信頼関係の構築に大きく付与したのではないかと思っています。

山崎 「社内のコミュニケーション、横の繋がりの活発化」というテーマ、いち早く自分たちは実現できているのではないかと思っています！今回の経験を糧に、これから仕事でも一層質の高い技術を、社外の皆様にもご提供できたらいいですね。

## 新社屋完成!! 完成に尽力した プロジェクト メンバーが語る

企画営業部  
**中小川 泰弘**

設計デザインのプランニング及び社内の意見の取りまとめ

工務部  
**日野 綱平**

施工管理（現場監督）、基礎・躯体工事

工務部  
**山崎 健太**

躯体工事、安全管理



シンプルな造作展示ボックスはメインである人形を邪魔しないように空間に溶け込ませる。



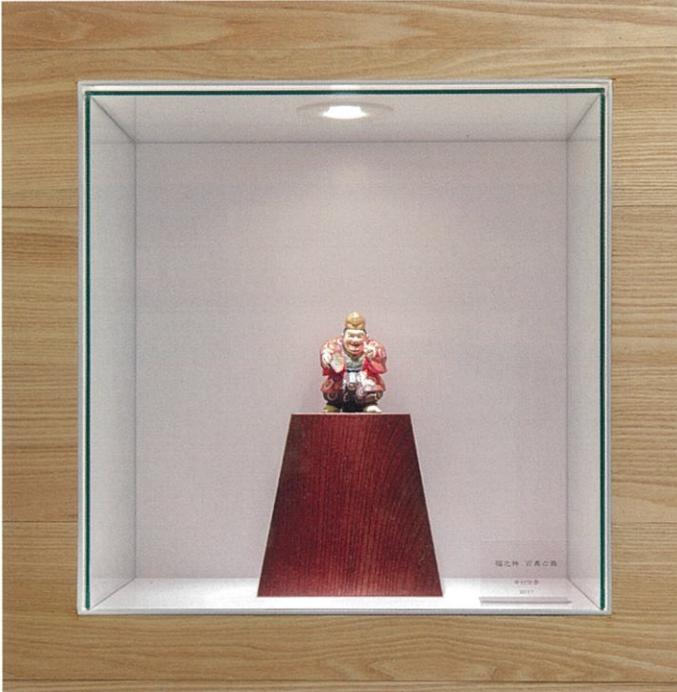
桜の花をモチーフにしたデザイン組子。天然木の良い匂いが安らぎます。



執務室横にはガラスパーテーションで仕切った多目的室兼打合せスペース。



席を固定していない営業スペースは、いつも整理整頓されて新鮮な気持ちで業務へ取り組む事ができます。



## 伝統工芸を身近に 感じる事のできるオフィス

日常業務の中で常に伝統の技を感じ、  
建築への豊かな発想を生み出す

### 伝統の技と建築技術の融合

応接室壁には、釘を一切使わず細く引き割った木を組み付ける「組子」という伝統技術を使つたしつらえを採用しています。なんでも飛鳥時代の頃から長い年月磨き抜かれていた伝統手法のようです。よく和

高さ、照明の当て方を確認する為、模型を作成し1つ1つ確認しながら人形の製作に入っていました。展示ボックスは余計な丁番金物や枠等を一切排除したデザインにしており、より展示物を引き立たせるデザインにしています。

### 空間に緊張感を持たせるアクセント

オフィスエントランスホールには人形師・中村信喬氏製作による有澤オリジナル作品を展示しています。製作するにあたり、あらかじめ展示スペースの大きさや設置

風の引き戸や欄間などに採用されており、私達の目を惹きつける力をもっています。

今回計画にあたり、モダンオフィスデザ

インの一部にうまく取り込めないかと考え採用しました。

### コミュニケーションしやすい 空間デザイン

執務室内は社員間のコミュニケーションがとりやすいように、気軽に集うポイントを随所に設けています。執務室横にはガラスパーテーションで空間を仕切ったあ

たたかい雰囲気の多目的室兼打合せスペースやコピーマシン等を1か所に集約したOAコーナーは、社員間のコミュニケーション向上を考えて配置しています。

営業部はフリーアドレス形式(席を限定しない)のデスクを採用し、毎日好きな場所に座って業務ができるようになっています。



**設計担当者が語る  
ここで働きたい!!  
と思える  
ARISAWAの  
新オフィス**

企画営業部 設計 中小川 泰弘



# RENOVATIONS FILE

新しい生活や、よりよい環境づくりを求めてARISAWAでリノベーションをされたお客さまをご紹介します。  
リノベーションを通して実現されたこと、ご要望を叶えたARISAWAの技をお伝えしていきます。

## 株式会社LIXIL 佐賀工場 耐震補強工事

建物の構造特性や設置可能な場所の制約を考慮しながら、工場の稼働を止めずに工事を行う耐震補強計画をしたもので  
す。工事内容としては外壁部分の基礎梁補強を行い、鉄骨プレース及びオイルダンパーを新設、また屋根面においては鉄  
骨水平プレースを新設、建屋内部には杭施工の上の鉄骨プレース間仕切りの新設を行う耐震補強工事を行っております。

### 大切な人財と製品を地震から守りたい



#### REPORT

(株)LIXIL 佐賀工場  
製造技術課 課長 製造技術課 設備係  
迫 英洋 様(左) 久保 和哉 様(右)

#### 有澤建設

リニューアル事業部  
高倉 秀吉 (中央)

取材時に現場視察にきていた(株)LIXIL様の担当者の方と一緒に写真を撮らせていただきました。

## 耐震強度を高めるしくみ



#### 壁の補強 ブレース

設置することで建物全体が一体となり、揺れを柱・梁・基礎へと力を分散させ、建物の変形を防止します。

#### 基礎の補強 基礎工事

元ある基礎部分を補強する工事を行います。基礎は建物を支える上でとても重要な箇所です。

#### 壁の補強 オイルダンパー

油の粘性を活かした油圧緩衝器を使い、地面から伝わる地震の振動を緩和して、揺れを抑えます。

## 地震への意識、 高まる昨今

2016年に発生し、大規模な被害をもたらした熊本地震はまだ記憶に新しく、皆様の地震への一層高い意識を喚起されたことと思います。大切な命や財産を守るために、地震に耐えうる建築物へのリノベーションを希望されるお客様も増えており、有澤の技術が活かされる場が広がりを見せようとしています。

### 「地震に備える建築のキホン」

地震が起きると建築物は、その地震の強さやその構造によっては大きな被害(震害)を受けることがあります。その震害を減らしたり防いだりすることを目的とした建築物等に対する設計を耐震設計(earthquake-resistant design)と呼びます。地震に耐えうる建築物のポイントには耐震のできる「構造」、地盤と建物をつなぐ「基礎」、「地盤」の3つと言われており、それぞれのポイントを押さえた対策を講じることで、地震への強度を高めています。今回ご紹介している「耐震」とはよく聞く言葉ですが、耐震以外にも地震への強度を高める方法があり、揺れを吸収するのか、抵抗するのか、補強構造の違いによりその方法も様々です。ARISAWAでも用途に合わせた方法を様々にご提案可能です。その性質の違いをご紹介します。

### 「免震構造」「耐震構造」「制震構造」の違い



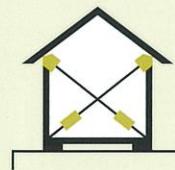
#### 揺れを伝えない「免震構造」

免震技術の最大の目的は、大地震の際の人命や財産の被害を防ぐことであり、地震力を抑制することによって構造物の破壊を防止する建物と基礎が固定されないように、間に免震装置を設置し、地震力をなるべく受けないようにすることです。



#### 揺れを抵抗する「耐震構造」

耐震構造とは太く頑丈な柱・梁で建物自体が地震に耐えうる強度で造られているもの。地震のエネルギーが直接、建物に伝わります。耐震壁を作り建物の倒壊を防ぎます。



#### 揺れを吸収する「制震構造」

制震構造の特徴としては、建物にエネルギーを吸収するダンパーを設置します。風の揺れに強く制振部材が地震エネルギーを吸収するため地震による被害を抑えることができます。



## ARISAWA'S PEOPLE

ARISAWAの誇り、それは「ひと」。  
ひとに愛され、  
愛してきたARISAWAだからこそ、  
ARISAWAに関わる全ての人たちを、  
ずっと大切にしていきたい。  
大切にしたいからこそ、  
大切にしている信念がある。  
“ARISAWA'S PEOPLE”では  
そんな“信念”を持つ  
社員たちを紹介していきます。

### よくある質問を徹底解説! **Q & A BOARD**

いろんなお客様とお話をさせて頂くことの多い営業部が、  
お客様からよく聞く質問をチョイス、詳しくご説明致します!

**企画営業部 課長代理 平野 誠治**  
その仕事を楽しめるくらいの気持ちでなければ営業の仕事は長続きしません。楽しく仕事をして、自分を成長させていく。これが私の営業スタイルです。

**取締役 営業部長 藤木 将志**  
新しいオフィスになり、社内のコミュニケーションがより活発になってきました。新しいメンバーも入社し、営業部がさらに活発化されています。

**QUESTION 現在福岡で人気の地区はどこですか?**  
**ANSWER**  
博多駅周辺は駅前中心だったホテル建設が駅南、駅東側の幹線道路沿いで活発に建設され、竹下通りから百年橋通りの地区ではマンション建設が進んでいます。天神地区は再開発に伴い地価が高騰、坪1000万~2000万円の高値となっています。100坪以上の商業地は異常な高騰を見せており、特にホテル用地の上昇が顕著で、30~40坪の広さでも坪300~400万円の値段が提示されています。売買の動きで見ると、東区は香椎浜や千早地区で大型マンションや戸建団地の開発が進み、高額物件の登場が話題になっています。特に千早地区は高級住宅街としてのイメージが定着し不動産バブルに近い状態です。

**QUESTION マンションでも地震保険は必要ですか?**  
**ANSWER**  
マンションの場合は、ロビーや廊下、階段、エレベーターなどの共用部分に対しては、オーナーや管理組合が保険をかけてくれることが多いので、加入するとなると玄関のドアから先の専有部分になります。最近のマンションは耐震構造や免振構造がしっかりしているので、よっぽどのことがない限り、大きな被害を受けることが少ないので確かです。そのような状況なのに保険をかけるとなると、少し抵抗があります。ただし、構造がしっかりしていても被害をうけるのは家財です。建物はしっかりしていても家の中の家財が損壊する可能性は大いにあります。家財にだけでも地震保険を掛けておくことをおすすめします。

**QUESTION 現在の賃貸市場はどの様な傾向にありますか?**  
**ANSWER**  
一昔前までは、賃貸物件のターゲットといえば大学生や単身赴任のサラリーマンでバス・トイレ一体のワンルームマンションが大量に供給され、現在も残っています。しかし、今ではこうした狭くて古いワンルームマンションは敬遠されています。高級仕様の住宅設備機器(ユニット・トイレ、キッチン)、独立洗面脱衣所付きが人気となっており、最近は賃貸物件も分譲賃貸物件も仕様・住宅設備機器のグレードアップ競争により見た目の差がなくなりつつあります。数年前から1LDKの賃貸物件が登場し、現在では床面積30m<sup>2</sup>~40m<sup>2</sup>の1LDKが最も多く供給されています。

**QUESTION マンションの耐震性はどうなっていますか?**  
**ANSWER**  
現在の建築基準法では耐震基準が定められており、具体的にいうと大地震(震度6強~7)に対して建物が倒壊・崩壊しないこと、また中地震(震度5強程度)では建物が損傷しないことが求められています。一般的なマンション等もこれらを念頭に計画段階から設計していきます。他にも地震の揺れを吸収・軽減する制振ダンパーを建物内に設置した『制振構造』や地面と建物の間に免振装置を設置し、地面からの振動を建物に伝えない『免振構造』など、地震に対する様々な工法があります。

**QUESTION 福岡市の不動産市場はどのような傾向にありますか?**  
**ANSWER**  
中央区・博多区の商業地ではホテル用地の獲得競争が激化して地価が高騰し、周辺の地価上昇にも大きく影響を与えています。天神地区の再開発エリアの地価上昇も顕著になっています。福岡市中心部ではホテルだけでなく高級マンションの建設も盛んに行われ、博多駅から徒歩圏のエリアではプレミア価格が付くほどの需要があるようです。周辺エリアにおいても金利低下を受けて賃貸アパートの新規建設が続いている。東区の千早エリアはバブルに近い状態にあり、南区では西鉄沿線で分譲マンションや賃貸物件の供給が盛んに行われ、用地不足の状況により地価が上昇しています。城南区、早良区も同様に活発な不動産の動きが見られます。

**PEOPLE**

企画営業部 営業アシスタント

**小山 未緒**

入社4年目。営業事務として、日々営業のサポートをしています。  
契約書の作成、近隣挨拶、地鎮祭の準備、現場事務所探しなど、着工前の下準備が主な仕事です。

**「工務部所長・日野が語る」  
社内を明るくする  
ムードメーカー**



小山さんは、いつも明るく笑顔で声を掛けてくれます。私も話しやすいので色々なことを相談しています。どんな話でも聞き上手で、場の雰囲気を読むのが上手なので老若男女問わずに誰からも好かれます。また、行動力のある一面もあります。日頃の業務においてもプライベートにおいても新しいことを思いついては、周囲を巻き込みながら挑戦します。社員15名ほどで月に一度フットサルをしているのですが、その発案者の一人が小山さんです。それまでは、社員同士で運動をする機会もほとんど無かったのですが、今では良いコミュニケーションの場となっています。小山さんの笑顔と人柄と行動力で周囲を巻き込みながら社内を明るくしてくれています。

**「営業部長・藤木が語る」  
営業部では  
欠かせない存在**



元々、総務として入社してきたのですが、営業事務として配置転換をしてもらいました。当初は不安そうな一面も多々ありました。今では積極的にお客様とのコミュニケーションも取れるようになりました。営業のサポートという仕事が、資料作成などの事務的な仕事だけではなく、近隣挨拶対応などの対外的なことも行っています。当初は近隣住民の方からクレームを言われことで興奮して帰ってくるときもあり、近隣廻りに対してかなり不安な気持ちもあったと思いますが、今では、部下でも積極的に行動できるようになり成長を感じています。今では営業部の一員として欠かせない存在感を出し、日々の業務に励んでいます。

**インタビューを終えて**

藤木部長、日野所長、ありがとうございました。普段、なかなか面と向かって褒められることがないので、嬉しくもあり、こそばゆい気持ちもあります。今の私があるのも、上司や周りの同僚の皆さんのおかげです。仕事の面ではまだまだ足りない点もありますが、ご期待に応えられるよう、これらもベストを尽くします。

**PEOPLE**

企画営業部 営業アシスタント

**内海 まゆみ**

入社して1ヶ月。営業アシスタントとして日々の業務に励んでいます。  
慣れないことばかりで毎日大変ですが、少しずつできることを増やしていきたいです。



**FACE.1  
営業アシスタント**



**FACE.2  
新入社員**



**FACE.3  
きれい好き**



**FACE.4  
音楽好き**

**時間的有效に  
使って楽しめます**

音楽フェスに行くのが趣味で、毎年友人といくつかのイベントへ参加します。たくさんのアーティストが出演するので、時間配分を考えながら、最大限楽しむようにしています。

**一歩先まで気付ける  
アシストを目指して**

営業の方がスムーズに業務が行えるようサポートしています。時間配分を考えながら、効率的に仕事を行うようにしています。予定通りに仕事が進むと達成感があります。

**入社して1ヶ月  
まだ勉強中です**

先輩社員に同行し現場回りや、書類作成などをしています。分からないうことばかりですが、1つ1つ丁寧にご指導頂いています。業務を早く覚えるようにメモは欠かせません。

**身の回りは  
いつもきれいに**

散らかっている状態が苦手で、常に身の回りは整理整頓する様心掛けています。新社屋では固定の机がなく、共用で机を使用するので、自然と片付ける習慣が身に付きました。

# S A F E T Y

## P A T R O L

### 有澤建設 安全のためのこだわり 安全パトロール

定期的に数名の現場監督が現場を巡回し、事故や災害につながる要因を早期に発見し、これを改善・是正し作業所の安全を確保する活動です。今回はこの活動に同行し、どの様な活動をおこなっているのか実際に体験してきました。



**REPORT**  
営業部 内海まゆみ  
入社1カ月 / 趣味:音楽鑑賞  
今回初めて建設現場へ行きました。建築のことまだまだ勉強中。今回は私の体験した、安全パトロールについてご紹介します。

#### 約50以上にのぼる きめ細やかな点検項目

- 項目例
- ・安全標識とマンガ板の掲示が適切にできているか
  - ・足場の転倒のあきは(30cm以内)規定通りにされているか
  - ・足場上の片づけ(何物も置いてない状態)

安全パトロール点検表	
点検項目	評価
安全標識とマンガ板の掲示	
足場の転倒のあきは(30cm以内)規定通りにされているか	
足場上の片づけ(何物も置いてない状態)	
その他	

### 危険と隣り合わせの現場で、 事故が起きない理由

建設現場と聞くと、クレーンやトラックなどの重機を使ったり、高くて危険な足場を歩いたりと、危険と隣り合わせのイメージをお持ちの方も多いと思います。建物ができるまで、現場はシートやパネルで覆われて、なかではどの様な作業が行われ、どの様に安全管理を行っているのか、知る機会は少ないと思います。危険を未然に防ぐ活動の1つに「安全パトロール」というものがあります。今回はこの「安全パトロール」についてどのような活動を行っているのか、ご紹介致します。

まず、現場に入る前にヘルメット、安全帯、脚絆(きやはん)を装着し、建物の最上部へと向かいました。現場の担当者と、3名の現場監督とで危険な所はないか隅々まで点検していきます。お互いに点検に関することだけでなく、施工に関する事にも意見を交換しながら、下の階へと降りていきました。その間にも多くの職人さんと出会いました。皆さん「お疲れ様です」と挨拶をして下さり、程よい緊張感と安心感がありました。皆さんの安全確保のためにもこの活動の大切さを実感しました。建物の内部を点検したら、

次は外側から建物全体をみていくます。内部だけでなく、近隣の方々にも危険が及ぶところはないかを確認していきます。最後に、会議を開き今回のパトロールで改善が必要な部分を現場の担当者へ伝え、是正・報告してもらうことでパトロールは終了しました。さまざまな立場の方と意見を交換することで、現場の担当者だけでは気づかない部分や、もっといい方法などを積極的に取り入れていける活動だと感じました。このような地道な活動が現場の安全を支えているのだと実感できる体験でした。



今年四月に新社屋も完成し、内覧会を通してお客様やお取引様、そして社員のご家族への紹介も無事終えることができました。

充実したキッチンスペースを設置し、社内のコミュニケーションを活発化し、既成概念に囚われない自由な発想ができるオフィス創りを目指しました。

当社としてこのような新しい挑戦ができることは、その思いに賛同し力タチにしてくれた現場のスタッフや

各部署の想いをまとめてくれた設計のスタッフなど

いろいろな面で頑張ってくれた全社員のおかげだと思っています。

100周年を経て今ここで意識すると、非常に時代の流れが速くなっていると感じています。世界情勢はもちろん、お客様のライフスタイルの変化、建設業界内の技術革新など。

そういう時代の流れに気づき変化していくからこそ、お客様に支持頂ける会社であり続けることができると思っております。

そういった私の想いから、当社員には業界の既成概念に囚われず、

本当のお客様のニーズはどこにあるのか、

今までご提案してきたサービスは今のお客様に本当に必要とされているか、など

思い込みの思考を捨て、改めて本質を見て変化を恐れず行動してもらいたいと思っています。

そういった思考の集まりが会社の変化を起こし、お客様に本当に必要とされるサービスを

時代の流れと共に提供していくことだと考えております。

木下 英資

有澤建設株式会社 代表取締役社長